

お菓子さんの手づくり市



毎月8日に手づくり市が開かれ、境内では、手づくりお菓子の
お店や、ハンドメイドショップが立ち並び、多くの人々の憩いの場
としてにぎわっています。

2008年から始まり、新型コロナウイルス感染症の影響で中止
を余儀なくされた時期もありましたが、対策を十分に講じた上で
再開しています。

陸奥国分寺跡の歴史を伝える
ボランティアの皆さん

陸奥国分寺薬師堂ガイドボランティア会



会長の岩渕さん

私たちガイドボランティア会は、拠点
の「史跡陸奥国分寺・尼寺跡ガイ
ダンス施設」を活用しながら、広く皆
様方に奈良時代、^{みことのり}詔により建立され
た陸奥国分寺跡、政宗公創建の薬
師堂の複合史跡を知っていただき、
地域を盛り上げたいと活動しており
ます。

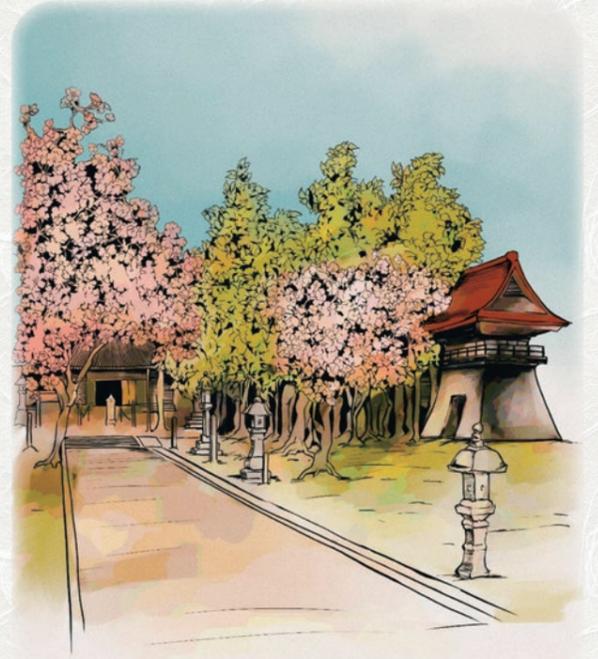
聖和学園高等学校 研修部



顧問の櫻井先生

聖和学園高等学校研修部は、活動
の一環として、史跡陸奥国分寺・尼
寺跡ガイダンス施設来館者の方へ、
陸奥国分寺跡の歴史や施設のことを
紹介するガイドボランティアを行っ
ています。陸奥国分寺跡をより多くの
市民の皆さんに知ってもらいたいと思
い活動しています。

発行/仙台市教育委員会文化財課 発行日/令和4年10月



国史跡

MUTSU KOKUBUNJI ATO

仙台市教育委員会



一般的に墨書土器に書かれた文字を見ると、一字ないし二
文字になっています。
墨書土器は古代社会の様相を解明する上で大変貴重な資料と
ならず、発掘調査で出土することはほとんどありません。そのため
文字は紙に書かれることもありましたが、土中に埋もれた紙は残
墨書土器とは、墨で文字が書かれている土器のことです。当時、
程度がほとんどで、それかどのような意味
を持つのかを判断するのは難しいところ
です。出土した場所の歴史的環境や性格と
大きく関わっていることを考える必要があり
ます。



⑤文字の意味は未だ不明!?「墨書土器」

平安時代の「日本三代実録」という書物には、貞観11年(869)
陸奥国で津波を伴う大震災が起り、陸奥国分寺も地震で大きな
被害を受けて瓦の葺き替えが行われたことが記されています。それ
に際して、貞観地震の翌年には瓦造りに長けた新羅人が陸奥国に
派遣されたとの記録も残されています。
その記録を裏付けるような大発見が、与兵衛沼澤跡(陸奥国分
寺)に瓦を供給していたといわれている)でありました。それが写真
の「棟平瓦」の出土です。「棟平瓦」は日本
国内に出土例がない極めて特殊な瓦である
と、韓国の寺院などで類似した使用例がある
ことを踏まえ、記録の通り、派遣されて
きた新羅人の関連を物語る貴重な資料である
といえるでしょう。



④新羅との関連を物語る特殊な瓦「棟平瓦」

「陸奥国分寺鐘樓」は仙台市登録有形文化財に登録されています。
正保2年(1645)の「奥州仙台城絵図」には、薬師堂と一緒に鐘
樓が描かれており、江戸時代の初めの頃には境内に鐘樓が存在して
いたようです。絵図に描かれている鐘樓は二階建の母屋造の建物
で、現在とは違い瓦葺きだったことがわかります。
令和元年度から行われた解体修理から、中世に建てられた鐘樓
が伊達政宗による整備を受けながら引き継がれてきたことが分か
りました。令和3年度末には修復工事が終了し、見違えた姿を見るこ
とができるようになりました。



③修復工事でよみがえった「陸奥国分寺鐘樓」

「仁王門」とは仁王像を左右に安置し、寺の中に悪いものが入りこ
まないように置かれた門のことです。この「陸奥国分寺薬師堂仁王
門」は、発掘調査の結果、奈良時代の陸奥国分寺の南大門跡に建
てられたことが分かっています。建てられた時期は不明ですが、貴
重な建造物として宮城県指定有形文化財となっています。



②金剛力士像が守護する「陸奥国分寺薬師堂仁王門」

陸奥国分寺薬師堂は、慶長12年(1607)に伊達政宗によって創
建されました。薬師堂は陸奥国分寺境内にあり、発掘調査により、
奈良時代の陸奥国分寺の講堂跡に建てられたことが分かっています。
薬師堂は、大崎八幡宮社殿と共に、仙台市内における桃山建
築の代表的建造物であり、国の重要文化財に指定されています。



①伊達政宗が創建「陸奥国分寺薬師堂」

陸奥国分寺跡
ココが見どころ!
特選



陸奥国分寺跡周辺の 歴史文化お散歩マップ



戦没記念碑 (宮千代一丁目)

高砂堀の東側の岸には、日露戦争の帰還兵が建てた戦没記念碑が残されている。護岸整備により、対岸からのみ見ることができる。



宮千代塚 (宮千代一丁目)

宮千代は和歌を好んだ美少年であり、和歌修行の途中「月は露 露は草葉に宿かりて」と詠んだが、下の句が続かず悶死した。村人が塚を築いて供養したが夜になると宮千代の霊が「月は露…」と吟じて通る人を怖がらせたという逸話が残る。



芭蕉の句碑ほか (木ノ下二丁目)

芭蕉に仙台を案内し、草鞋二足の餞別を送った画工加右衛門への感謝の気持ちで詠じた句を刻んだもの。碑文は「あやめ草 足に結ばん草鞋の緒」。芭蕉の句碑の横には「望月宗屋句碑」「大淀三千風供養碑」がある。

陸奥国分寺薬師堂

史跡陸奥国分寺・尼寺跡 ガイドンス施設

国分尼寺

陸奥国分尼寺跡 (白萩町)

全体の伽藍配置や規模については未だ解明されていないが、礎石建物跡や尼房と考えられる掘立柱建物跡が見つまっている。



准胝観音堂 (木ノ下二丁目)

現在の准胝観音堂は、六代藩主伊達宗村が国家安全と生母である長松院の菩提のために創建したもの。



真山青果の碑 (南小泉一丁目)

劇作家・小説家である真山青果 (1878～1948) の石碑。自身の農村での代診医としての経験をもとに執筆した「南小泉村」で脚光を浴びた。他にも新歌舞伎の演目「元禄忠臣蔵」などの作品がある。



白山神社 (木ノ下三丁目)

白山神社は陸奥国分寺創建期に地元の守護神として祀られたとされる神社。この地を治めた国分氏の氏神となり、その後伊達家においても深く崇敬された。かつて白山神社の祭日には、流鏝馬の神事が行われていた。



高砂堀 (若林区～宮城野区)

江戸時代に開削されたとされる農業用水路「七郷堀」から分岐する水路。かつては緩やかに曲がりくねって流れていた。現在は木ノ下、宮千代、卸町を経由して、梅田川へ注ぐ流れと、岡田堀へつながる流れに分かれている。

陸奥国分寺跡の周り にある遺跡



保春院前遺跡

江戸時代の溝跡、土坑、柱穴跡のほか、現七郷堀と平行する幅の広い溝跡も複数見つかかり、古い時期の七郷堀と考えられている。製鉄関連の遺物も発見された。



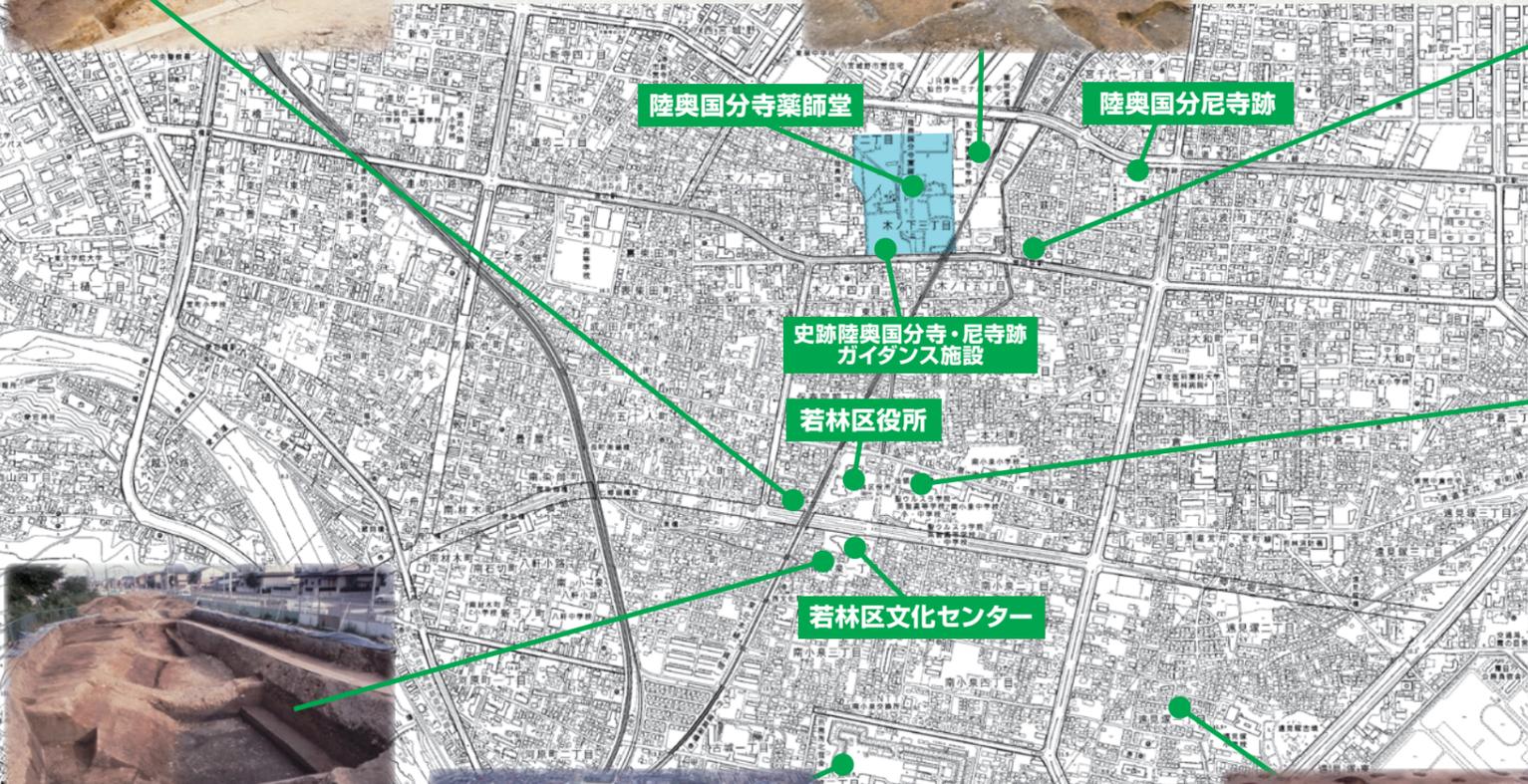
国分寺東遺跡

陸奥国分寺の東に隣接し、陸奥国分寺との関係をうかがわせる古代の集落跡。



薬師堂東遺跡

陸奥国分寺跡の東で発見された。梵鐘が鋳造された跡を含む古代の集落跡。



陸奥国分寺薬師堂

陸奥国分尼寺跡

史跡陸奥国分寺・尼寺跡 ガイドンス施設

若林区役所

若林区文化センター



法領塚古墳

上段と下段からなる二段築成の墳丘を持つと推定される円墳。墳丘の南側には石室の入り口が開いており、今でも玄室・羨道・前庭で構成される横穴式石室が残されている。墳丘・石室ともに古墳時代終末期としては東北最大の規模であり、仙台平野の首長墓と考えられる。



養種園遺跡

中世の屋敷跡や墓跡、仙台藩二代藩主伊達忠宗の別荘である御飯屋や四代藩主伊達綱村が造営した伊達家別荘が発見された。



若林城跡

仙台藩初代藩主伊達政宗が晩年をすごした城跡。堀(水濠)と土塁を四方に巡らせた平城である。現在は宮城刑務所となっている。



南小泉遺跡

弥生時代から近世にかけての集落を中心とする複合遺跡。「南小泉式」の土器は東北地方の土器器編年の型式名として広く知られている。